

第4回 大谷・小鹿地区まちづくり検討会議

第2回検討会議・ワークショップの振り返りと 視点ごとの課題整理

令和5年2月2日

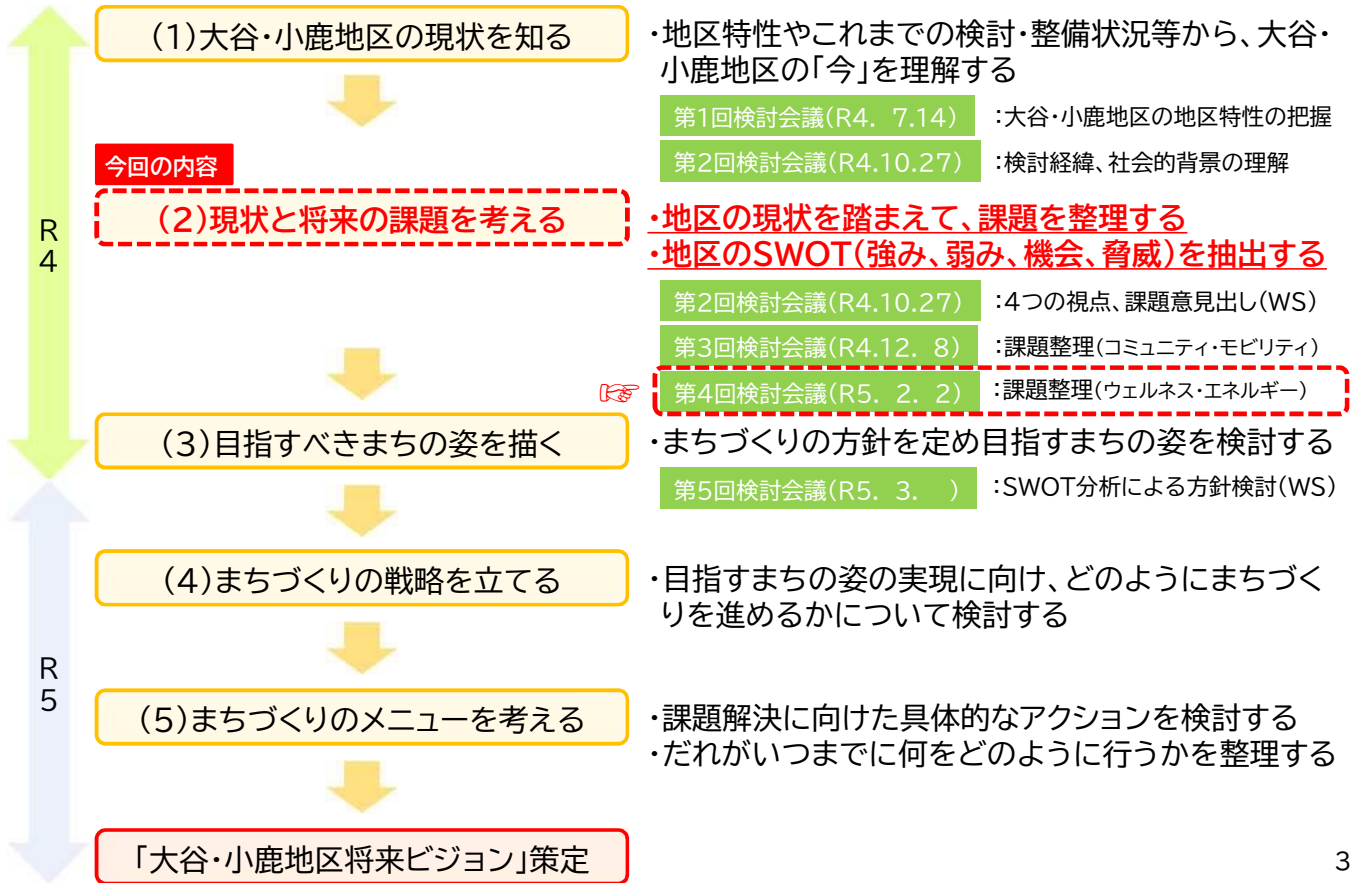


目次

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り	… 3～10
(2) 視点ごとの課題整理	… 11～14

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

○検討・議論の流れ



(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

○まちづくりの4つの視点



(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

Recorded by マスダマサ

2022年
10/27(木)
9:30~ 第2回
大谷・小鹿地区
まちづくり検討会議
各地域の活動報告

◎まちづくりフェスについて

バンビノプロジェクト
小学生を対象
子どもたちがまちについて知る
「地球にあるものを活用する」
資源活用
探検ゲーム
コミュニティ
小学生
食やゲーム屋
新たにできるもの
開く
まちについて考える
新しくできるものを知る

◎シゴト人マップの活動報告

まちなかの主催
シゴト人マップ!
子どもたちが
取材
小学4年生
プロのカメラ
をうけて自分で
取材へ!
取材内容を
まとめて、
写真ははりつけ!
子どもたちが
ついたものを
活用して...

◎まち探検ゲームについて

スマホから
音声が入ります
子どもたちが
シゴト人マップの
音声クイズ
GPS連動型の
音声カードを
使います!
2022
11/20
バンビノプロジェクトにて
まち探検ゲーム
体験会を行います!

◎地球脱炭素化に向けた新会社設立

ENEKI
H24 静岡市の
ブランドデザイン
静岡ガス
上橋さん
まち全体でエネルギーを
使っていく!
思田原・片山地区の今後の姿(イメージ)
屋根に太陽光パネル
新会社が入る
新しく来る会社に
任せると...
やる... やらない...
まばらになる...
静岡ガスとアスタ
で管理して
エリアでエネルギー
をつくる!!

◎靴紐アドバイス

ウェルネス
上平さんは
まじの
ポイント
音から歩く
ことに課題を
抱いていた
マイシューズ
スーパース
木森さん
サイズ
足はゆとり
合せて!
しっかり
靴紐を締めよう
歩くとまじは足は
床はついてる?
※バンビノプロジェクトでは...
たのしく歩けるように
子どもたちへ靴のほき方
をレクチャーします。

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

モビリティ
(快適な
移動環境)

吉林さん

にぎわいからできていく中で
課題 → 交通手段が足りない
歩道 乗り物 公共交通など...



乗り合いタクシー
の整備など...

2022年 @シーサイド大谷
10/27(木)
9:30~ 第2回
大谷・小鹿地区
まちづくり検討会議
ワークショップ発表

歩く から考える
外出の機会をつくる
街や海の
設備
人から交流
するための
しくみ
ハードとソフトの
両方
ハードとソフトの
両方

ウェルネス
(健康長寿の
促進)

矢野さん

歩く=具体的な健康
だけでなく心の健康にも
関係していた。かびりな歩
きを持て展開になると
期待できる。
ハードとソフトの
両方
自転車や
歩道も...
歩ける所
どう
スポーツか?

どういった需要が発生するか?
馬 → 地球ならバスもたくさん必要
自働運転バスの完備

ハードとソフトも考えよう
新しい乗り物を使うとして。
交通ルールはどうなるだろう?

遠藤教授

人のつながりづくりが大切

① 顔を
② 顔を
③ 顔を
④ 顔を
⑤ 顔を
⑥ 顔を
⑦ 顔を
⑧ 顔を
⑨ 顔を
⑩ 顔を
⑪ 顔を
⑫ 顔を
⑬ 顔を
⑭ 顔を
⑮ 顔を
⑯ 顔を
⑰ 顔を
⑱ 顔を
⑲ 顔を
⑳ 顔を
㉑ 顔を
㉒ 顔を
㉓ 顔を
㉔ 顔を
㉕ 顔を
㉖ 顔を
㉗ 顔を
㉘ 顔を
㉙ 顔を
㉚ 顔を
㉛ 顔を
㉜ 顔を
㉝ 顔を
㉞ 顔を
㉟ 顔を
㊱ 顔を
㊲ 顔を
㊳ 顔を
㊴ 顔を
㊵ 顔を
㊶ 顔を
㊷ 顔を
㊸ 顔を
㊹ 顔を
㊺ 顔を
㊻ 顔を
㊼ 顔を
㊽ 顔を
㊾ 顔を
㊿ 顔を

橋さん

コミュニティ
(暮らしの充実)

金森
准教授

田中
教授

有識者の方

阿部
教授

コミュニティは
交流と継承に課題
を抱えている
新しい担い手をまきこんで
つなげていけるようにする
ことが大切

会議全体について
WSは難しいとは思いますが
日常的にまで暮らししていると
あまり意識できないことをどう
可視化することが次に繋がる

モビリティ「エネルギー」をつくる
地球の人のための
エネルギーづくり
地球のエネルギーへの
意識を高めて一緒に
考えていく事ができる良いな
環境を保全
するって大切!
エネルギー
(クリーン×安心)

森さん

Recorded by マスダマサ

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

コミュニティ(暮らしの充実)

居場所

- ★チャレンジショップ 対面・拠点
- 集まる場所、方法をどうする？
- だれもがふらっと寄れる。長居したい
- 長居したいと思えるような
- 行ってみたら誰かが居る
- 公民館の改築 拠点を造ってイベントを開催
- 知ったり気づいたことを伝え合う場づくり
- たまり場・居場所
- 地域の人と転入した人が気軽に集える場

交流のプラットフォーム

- ソーシャルファン リテーターの育成
- コミュニティフリッジ
- 様々な立場の人が交流できる駅のような場(プラットフォーム)
- Feel Walk
- シェア経済
- 顔の見える関係性
- まちづくりより地域づくり
- 安心できるルールが定められている

イベントを使う 関係づくり

- 様々な人が集まるイベント(祭)と(ひなん訓練)と2次会
- 「農」を通じた関係づくり
- 農業祭 まつりの開催で人を集める

子供との交流

- 子どもを思い切ってまんまかに据える
- 子どもたちのたまり場になっている
- こどもの居場所(だかしやさん)

若い人・世代の交流

- 自治体×学生(地域住民) コラボレーション 最大の価値
- 大学をうまく使う
- 人が少なくなって祭りがなくなる。継承が大事
- コロナでイベントがなくなってしまった
- 若い人との交流!
- 昔からの行事を大切に体験してもらう
- 新しく入って来た人がどう考えている若い人の力を借りたい!
- 500人の中、1/4が高齢者 → 人との交流が大事

地域の資源を大切に

- 大谷人ならではの「村」学「寺」を大事に
- 大谷人を知る!
- 今ある地域のよさを知る気づくまち歩き
- スルガ区 もりあげ隊をやってみよう
- 事業地区の回りの資源を大事にしてネットワーク化
- 災害時に助け合い 高齢者×学生×世帯(独居)
- 子どもまんなか レジリエンス(災害時とか) コラボレーション(立場の違い) → まず知り合う特に若者と地元の人 運動会 人とつながる仕組みづくり (農、祭り、だかし屋→楽しさ) オリジナリティ(大谷・小鹿の人、行事などを再発見&意味の共創 拠点(シンボリックな)自治会の事務所など アップデート→伝統のポジティブ継承
- 新しい人とのつながり (顔の見える関係) 孤独 身近な社会 高齢者-子ども 若者 社会人 若い人
- 大学 子ども
- 共創
- 大学 子ども
- 共創

グループmember

- 学識 ...1名
- 自治会代表者 ...2名
- 企業等 ...1名
- 組合等 ...0名
- 学生 ...2名
- その他 ...1名
- 行政 ...1名
- ファシリテーター ...1名

合計 9名

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

モビリティ(快適な移動環境)

課題

- コミュバスあるけど、高齢者には不便・アクセス
- 道路がせまい
- 静岡駅周辺エリアへの交通手段(バス 自家用車) → 高齢化対応など
- スマートIC付近のモビリティポート検討(次世代型交通の実証等)
- 電車へのアクセス方法が限られている
- 静岡駅に集中しすぎている(交通バスなど)
- 家庭における2台目の車の利用

物流における運搬 人材不足

- 進出企業の地域への取り込み
- 人口増を目指す
- にぎわい
- 交通手段(バスの路線の見直し)
- 災害の強いまちづくり

地区の特色がわからない

- 地域内の方がどこに行きたいかわからない
- 買い物づらい
- 移動手段が車(バイク・自転車含む)に限られている
- 歩道整備が遅れていて歩きにくい
- 高れい化が進んで運転が心配

解決するために

- 歩行者のための安全な道路
- 自転車等との分離
- ハード整備と一緒にソフトも一緒に検討
- 自動運転をするのであれば対応した道を!!
- 移動しやすい歩道の整備
- 時間にとられない公共交通
- 高齢者にも乗りやすい対応したのもの
- 移動販売
- バス以外に乗り合いタクシー等
- 多様な交通手段

グループmember

- 学識 ...1名
- 自治会代表者 ...1名
- 企業等 ...4名
- 組合等 ...2名
- 学生 ...0名
- その他 ...0名
- 行政 ...0名
- ファシリテーター ...1名

合計 9名

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

ウェルネス(健康長寿の促進)

大目標

健康な大谷・小鹿モデルを発信!

歩く場を知らせる

ウォーキングコース「ウォーキングマップ」がない
歩くコースがわからない。

健康意識をつくる

家と職場の移動が多い
健康に対する意識が低い
どんな風に歩いていいかわからない

そもそも歩くことが嫌だった
足が悪いため歩き方がわからない

夏暑くて冬寒いからいつ散歩しよう…を考えているうちに1日終わる。

美容

歩×美

整体で歩き方教えてもらった
↓
歩くのすごい! 整体は身近! ってなればいいなと思った

ソフト対策

歩けば歩くほどマイルがたまってポイントになるアプリ入れてから「あともう少し歩こう!」が増えた

外出の機会づくり

高齢者、一人暮らしの取組
高齢者男性の取組(外出機会つくる)

まち
ウォーキングのみを主目的としないコースの整備
商店街との連携

海
海岸沿い(R150沿)の道の周囲のにぎわい作りにより「歩こう!」と思わせる街づくりをする

リモートで歩かなくなった(コロナ)
気軽にに行けるフィットネスジム
温浴施設
港の活用

グループmember

- ・学識 …0名
- ・自治会代表者 …1名
- ・企業等 …2名
- ・組合等 …1名
- ・学生 …1名
- ・その他 …1名
- ・行政 …1名
- ・ファシリテーター …1名

合計 8名



コミュニティ

すれ違うときに会話やあいさつができるような関係性があるが楽しい。幸せポイントたまる
地域交流会の実施(参加協力できる事)

防犯

「歩く」ことが健康につながるということは知っているけれどもおっくうになってしまう
ひとりで歩くのが嫌、不安
ペットと歩いているけれど「運動」とはいえない

空間の課題

外に出ることを考えたときに段差や坂などがあるから「別に用もないしやめとこ」という気持ちになる
歩行空間が整備されていない(道がせまい)(自転車)

歩く
自転車専用通路と分かれてきているが元の道幅が広がっていないので実質変わっていない
交通量が多くなった暗いところも多い

(連続空間)
河川敷の再整備(ウォーキングコース)(サイクリングコース)

(1) 第2回検討会議・ワークショップの振り返り

ウェルネス(健康長寿の促進)

取り組み

脱炭素は大きな課題これに取り組む先進モデルになれると良い
目指すべき先進的なモデルとは??
大谷・小鹿知地区が「クリーンなまち」のリーダーシップをとれるような「提案型」の町づくりをしてほしい

電力が余るところがあれば必要などところに供給する
自給できること→分配できること
電力不足が続いている…まちとしてエネルギーを生む
太陽光発電と蓄電は必要
新しく開発することの独自性

建築含めて省エネ創エネに有効利用→需要を埋める融通が大切
地域住民への供給
災害対応
津波?
外部に依存しない自立したしくみ

マインド

地域・町の人々の声
生活者(従業員、住民等)の意識変革
夏や冬の各戸のエネルギー利用を抑えることが必要
クリーンなエネルギーを理解する。クリーン=太陽光だけではないのでは…
エネルギー問題との向き合い方、事業性

技術活発マインド醸成
エネルギー成熟?

他分野との関係

交通環境との関係
富士見台1丁目内に南北に通ずる道路の交通量が明らかに増えており事故もあり安全面に不安を感じている
スマートインターがあり、車の流量が多いのでは(排気ガスの問題)
自動車に頼らず移動する環境をつくる

パルクル(レンタル自転車)のさらなる周知車(減)
恩田原の取り組みとの連携
地域の自然資源を活用する
農地、自然環境とかけあわせられた省エネ、クリーンエネルギー有効活用できないか?

緑地(農地を含む)を維持、管理したい
治水対策の大谷川深さもあり、何か活用できないか

エネルギーコスト・インフラ

ライフラインの整備虫くい
建築時使用エネルギー
足元の電気料金高騰に対する対策
電気が高い電氣不足

グループmember

- ・学識 …1名
- ・自治会代表者 …1名
- ・企業等 …4名
- ・組合等 …2名
- ・学生 …1名
- ・その他 …0名
- ・行政 …0名
- ・ファシリテーター …1名

合計 10名



(2) 視点ごとの課題整理

コミュニティ(暮らしの充実)

WSでのご意見		解決すべき課題	
分類	主なご意見		
ア	空間・場所	<ul style="list-style-type: none"> ★チャレンジショップ 対面・拠点 ・だれもがふらっと寄れる、長居したいと思えるような ・知ったり気付いたことを伝え合う場づくり たまり場・居場所 ・地域のひとと転入した人が気軽に集える場 ・行ってみたら誰かが居る ・拠点(シンボリックな)自治会の事務所など 	1. 交流拠点となる場の創出 ・交流拠点となる物理的な場所、空間の確保 ・既存の建物、公共空間
イ	交流・連携のためのプラットフォーム(組織、手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルファシリテーターの育成 ・顔の見える関係性 ・安心できるルールが定められている ・まちづくりより地域づくり ・自治体×学生(地域住民)コラボレーション 最大の価値 ・新しく来た人がどう考えている 若い人の力を借りたい! ・500人の中、1/4が高齢者 →人との交流が大事 ・子どもを思い切ってまんなかへ据える ・「農」を通じた関係づくり 	2. 交流プラットフォームの構築 ・まちづくり関係者の意見、情報交換を行う会議体 ・まちづくりを主体的に担う組織の形成 3. 多様な主体の交流機会の創出(日常) ・住民、来訪者、学生、企業、子どもなどの多様な主体が日常的に交流を持てる機会や場所の確保
ウ	イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナでイベントが終わってしまった ・様々な人が集まるイベント 祭と避難訓練と2次会 ・農業祭 まつりの開催で人を集める ・まず知り合う 特に若者と地元の人 運動会 ・公民館の改築 拠点を作ってイベントを開催 	4. 多様な主体の交流機会の創出(イベント) ・交流の最たる機会となるイベントの定期的な開催による賑わい創出
エ	地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・昔からの行事を大切に体験してもらう ・人が少なくなって祭りがなくなる。継承が大事 ・大谷人ならではの 村 学 寺 を大事に ・大谷人を知る! ・今ある地域のよさを知る気づくまち歩き ・事業地区のまわりの資源を大事にしてネットワーク化 ・オリジナリティ(大谷・小鹿の人、行事)を再発見 & 意味の共創 	5. 地域資源の有効活用・継承 ・歴史、文化、伝統、祭事、行事や史跡、寺など、地区が有する資源を改めて理解し、発信、継承 6. 新たな地域資源の発掘 ・新たな地域資源となる地区独自の魅力発掘
オ	安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に助け合い 高齢者×学生×世帯(独居) ・コミュニティフリッジ 	7. 安全・便利・快適な生活環境の実現 ・互いに助け合い、地区全体で暮らしの質を高める
カ	新しい価値観・くらし	<ul style="list-style-type: none"> ・震災とかコロナ ←チャンス ・シェアリングエコノミー 	8. 新しい日常への適応 ・コロナ禍、デジタル化等による暮らしの変化への対応

(2) 視点ごとの課題整理

モビリティ(快適な移動環境)

WSでのご意見		解決すべき課題	
分類	主なご意見		
ア	移動環境(歩行者・自転車)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道整備が遅れていて歩きにくい ・道路がせまい ・歩行者のための安全な道路 ・自転車等との分離 ・移動しやすい歩道の整備 	1. 移動の安全性・快適性向上(歩行者・自転車) ・歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備 ・歩道の広さ、平坦性など
イ	移動手段(近距離移動)	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートIC付近のモビリティポート検討(次世代交通の実証) ・買い物しづらい 	2. 近距離移動の利便性向上 ・住民の近隣移動や来訪者の地区内移動の手段確保
ウ	移動手段(公共交通・多様な交通)	<ul style="list-style-type: none"> ・交通手段(バスの路線の見直し) ・コミュニティバスあるけど、高齢者には不便・アクセス ・静岡駅周辺にエリアへの交通手段→高齢対応など ・静岡駅に集中しすぎている ・大谷から静岡駅まで時間がかかりすぎる ・電車へのアクセス方法が限られている ・移動手段が車に限られている ・時間にとられない公共交通 ・バス以外に乗り合いタクシー等 ・高齢者にもりやすい対応した乗り物 ・多様な交通手段 	3. 公共交通の利便性向上 ・鉄道、バス、タクシー等、既存の公共交通の利便性向上 4. 多様な移動手段の効果的な活用 ・既存の移動手段を組み合わせ活用 ・移動手段の多様化への対応
オ	移動手段(自動車)	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭における2台目の車の利用 ・高齢化が進んで運転が心配 ・自動運転をするのであれば対応した道を!! 	5. 自動車利用の適正化 ・過度な自動車利用を避け、自動車利用を適正化する 6. 自動運転技術への対応 ・自動運転技術に対応した道路、施設の整備
カ	移動ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内の方がどこに行きたいかわからない ・地区の特色がわからない ・ハード整備と一緒にソフトも一緒に検討 	7. 地区周辺移動の把握 ・交通系情報基盤(既存データ)を活用した移動ニーズの把握、データ活用
キ	物流	<ul style="list-style-type: none"> ・物流における運搬人材不足 ・移動販売 	8. 物流の効率化 ・新たな物流システムの構築 ・移動販売等、地区内物流の集約化

(2) 視点ごとの課題整理

ウェルネス（健康長寿の促進）

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	歩行空間 ×モビリティ	1. 移動の安全性・快適性向上（歩行者・自転車） ・歩行者・自転車にとって移動しやすい空間の整備 ・歩道の広さ、平坦性などの確保 ※「モビリティ」と共通
イ	歩く仕掛け(ソフト)	2. 歩き、健康維持の動機づくり ・歩く、走る、スポーツ等を促す仕掛けをつくる ・歩行促進ツール(ウォーキングコース、マップ、アプリ等)の作成、展開
ウ	歩く仕掛け(目的地)	3. 目的地となる魅力あるまちづくり ・魅力的な公共空間の整備や施設の誘致 ・景観への配慮 ・充実したサービス提供のための運営体制の構築
エ	マインド	4. 歩き、健康に関する意識・意欲向上 ・歩き、健康に関する意識、意欲や知識の向上を図り、個人での運動習慣構築に取り組む ・歩き、健康に関する学びの機会をつくる
オ	歩きによる交流 ×コミュニティ	5. 歩き、健康維持を通じた交流拡大 ・個々人の健康維持のため、地区単位での取り組み ・健康活動団体等をつくり、交流を図る
カ	医療	6. 医療・福祉との連携 ・医療機関や福祉機関と連携し、病気を予防 ・医療へのアクセシビリティ向上等

13

(2) 視点ごとの課題整理

エネルギー（クリーン×安心）

WSでのご意見		解決すべき課題
分類	主なご意見	
ア	脱炭素	1. 脱炭素社会実現への取組 ・脱炭素を先行的に取組む地区としての発信、意識共有 ・脱炭素社会実現に向けて、他都市のモデルとなるような先進的な取組を行う
イ	既存資源の有効活用	2. 既存の自然資源の保全・活用 ・既存の緑地や農地等の保全 ・既存の河川、農産物等を活用した取組み ・クリーンエネルギーの活用等
ウ	エネルギーの効率化 ・有効利用	3. 地区内での電力の自給自足 ・地区で自立した効率的なエネルギーシステムの構築 ・恩田原・片山地区の取組の水平展開等
エ	安心・安全	4. 災害対応力の強化 ・災害に備えた設備やシステムの構築 ・強靱なライフラインの整備 ・余剰電力の災害時利用
オ	電気、エネルギーへの意識	5. 個人単位での電力消費の低減(省エネ) ・個人での消費電力抑制 ・省エネ意識の醸成
カ	自動車依存からの脱却 (環境負荷低減) ×モビリティ	6. 自動車以外の移動手段の充実 ・過度に自動車に依存しない移動環境整備 ・エネルギーの融通によるモビリティとの連携 ・環境負荷の低減へと繋げる

14